

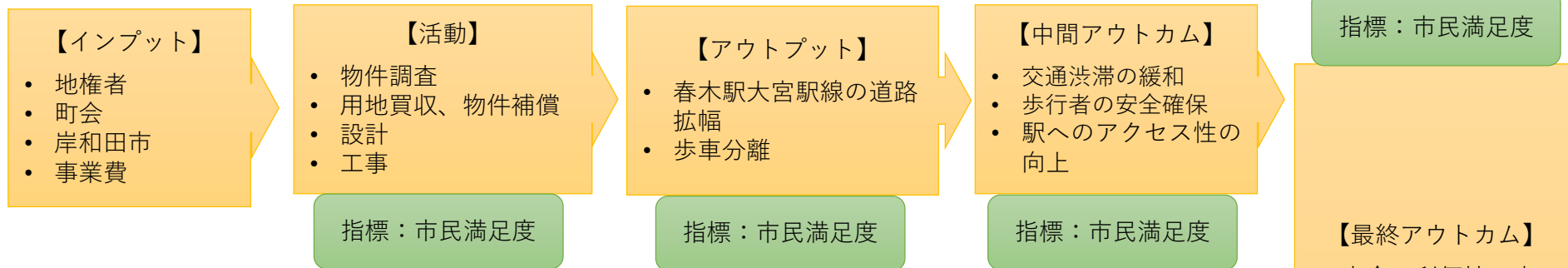
【R 6 年度】重点目標の取組・概要（春木駅周辺整備の推進[市街地形成事業・都市基盤整備管理事業]）

担当課（内線）	都市整備課市街地再生担当（3 1 2 8）	個別目標の方向性	地域の活性化を導く拠点の形成を進める
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
南海本線春木駅周辺の地域拠点にふさわしい安全で利便性の高いまちづくりの実現のため、春木1号踏切付近の交通渋滞の解消を図る必要があり、さらに、春木1号踏切から春木西之内線までの区間が、近隣に位置する城北小学校の通学路に指定されことにより、喫緊の課題として、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する必要がある。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。 （延長L=136m、幅員B=16m） 【成果に向けての各年度の進め方】 R 6 年度 用地買収、物件補償、工事 R 7 年度 用地買収、物件補償 R 8 年度 工事 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 （期 間） R 6 年4 月～R 7 年3 月 （対象者） 事業区域内権利者 （内 容） 用地買収、物件補償、工事	
R 6 年度の事業費（内訳）			
R 6 年度 208,003千円 （内訳）用地買収、物件補償、工事			
R 5 年度以降の事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
R 7 年度 90,000千円 R 8 年度 32,900千円		鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域） 16.7%（2022）➡増加（2025）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること 未定

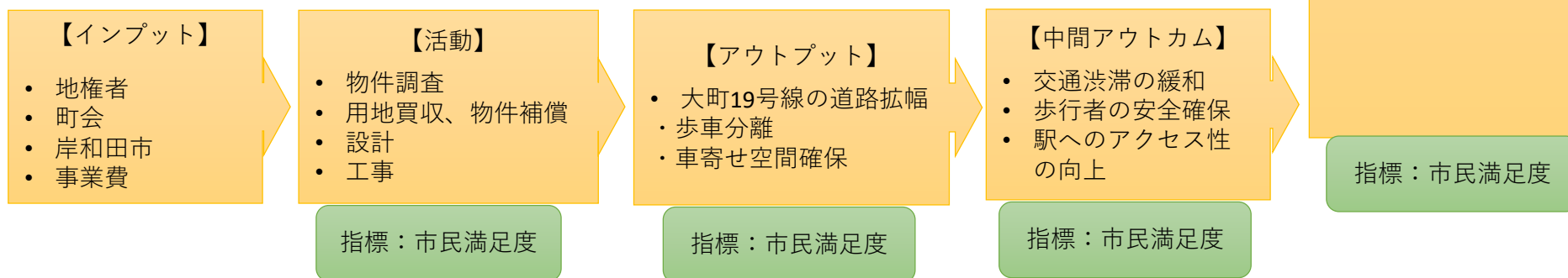
【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（春木駅周辺整備の推進[市街地形成事業・都市基盤整備管理事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】

市街地形成事業（春木駅周辺まちづくり事業）



市街地形成事業（久米田駅周辺まちづくり事業）



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 喫緊の課題に対応するため春木駅大宮駅線を道路拡幅し、交通渋滞の緩和、連続的な歩行空間及び交差点の見通しを確保する。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 用地買収
- ・ 物件補償
- ・ 工事

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 用地買収、物件補償、工事

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
	鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合（岸和田北部地域）	%	16.7（2022）	増加（2025）	15.5（2024）

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 特になし

■ 課題分析

- ・ 特になし

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ ロジックモデルで設定したとおりの活動（用地買収、物件補償、工事）が実施できている。アウトプットを目指し、活動を継続していく。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 引き続き、活動（用地買収、物件補償、工事）を実施していく。